

但野寛

出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

但野 寛（ただの ひろし、1914年1月29日 - 1986年9月6日[1]）は、北海道旭川市出身のクロスカントリースキー、アルペンスキー選手。

旭川中学校 → 日本国有鉄道札幌鉄道管理局

1935年の第13回全日本スキー選手権大会クロスカントリースキー個人耐久（56km）

で3位となり、翌1936年のガルミッシュパルテンキルヒェンオリンピックの代表に選出される。

同オリンピックのクロスカントリースキー競技では、個人耐久（50km）で28位、

個人長距離（18km）で59位、4x10kmリレーで12位の成績を残した。

また、同オリンピックより採用されたアルペンスキー競技のアルペンスキー複合（滑降・回転）にも、同じ距離選手の関口勇・関戸力とともにエントリーしたが、後半の回転で全員失格した。

1937年～38年の全日本スキー選手権大会クロスカントリースキー個人耐久では、連覇を果たした。

旭川東高生
オリンピック
初出場は
但野 寛
旭川中学24期
(昭和6年卒)



五十年史 スキー部

五年度 部長同前

六年一月二四日 校内大会（吹雪）各一位をあげれば、

五料デスタンスレース 四年 繁富 三〇分〇九

ジャンプ 四年 御手洗 一八〇点

三料レース 二年 西岡 二一分フラット

十二料リレー 四年チーム

二月一日 中部スキー選手権大会（伊ノ沢）五年但野十八軒レースで三位に入賞。一時間二六分一五

八月 第四回四校連盟大会。各校出場者七名。吹雪中に活躍。

十一年度 部長同前

九月一六日 常盤公園を中心として伊ノ沢・神楽岡へのマラソン開

始

一〇月四日よりオリンピック選手但野氏の指導を受け旭商と伊ノ沢に練習シャンツェ建設に着手。

一月下旬 練習シャンツェ竣工、北海道行幸に因んで記念練習台と命名。

一二月七日 校庭で平地滑走練習始

二月二五日 安達・伊黒の両オリンピック国際選手を迎え記念練習台のシャンツェ開きを聞く。五十嵐選手足を捻挫、わが部の大打撃

翌十二年一月三十一日 伊ノ沢渡部方に合宿、本格的猛練習

但野、安達、伊黒はともに
1936年ガルミッシュパルテンキルヒェン
オリンピックに出場

昭和十一年度

四・一（水）始業式

四・二（木）入学式

四・六（月）課外授業開始

四・七（火）北大予科合格発表

四・二（金）正副級長・庶務委員・通学自治団役員任命

四・二（土）学友会予算会議

四・三（月）自由運動具一式各学年各組に配布

四・三（土）学校自治会（毎月一日に皇居遙拝を決定）

四・三（月）小学校との懇談会（於講堂）

五・一（金）開校記念日 国際スキー選手但野先輩の講

演 学友会選手推戴式 競技部マラソン（旭

山）

五・九（土）強行遠足（全校優勝三年三組）

五十年史 日誌抄

昭和11年（1936年）

オリンピック出場後 母校で講演

夏のオリンピック
初出場は
北口榛花
東高66期
(2016年卒)